

県央・湘南の 環境と共生する都市づくり NEWS ● 2001.6

第 3 号

● みんなで考え、行動する環境共生の都市づくり通信 ●



目 次

- 2～3P 「ツインシティ整備計画」の策定に向けて
- 4～6P いま、県央・湘南都市圏では、～市町村での取り組みから～
- 7P ツインシティの都市づくり研究パートナー
行政と企業・団体との研究会～研究会がいよいよスタート～
- 8P お知らせ／神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会について

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会では、新幹線新駅を誘致する寒川町倉見地区と相模川をはさんだ対岸の平塚側地区とを新たな道路橋でつなぎ、両地区の機能分担と機能連携が図られた一体的な都市を整備し、全国との交流連携の窓口となるゲートを形成するとともに、環境と共生するモデル都市をめざす「ツインシティ」の都市づくりを進めています。

昨年3月に「ツインシティ基本計画」を策定しましたが、現在、地元の皆様方や関係機関等と調整しながら、具体化に向けた次のステップとなる「ツインシティ整備計画」の策定に取り組んでいます。

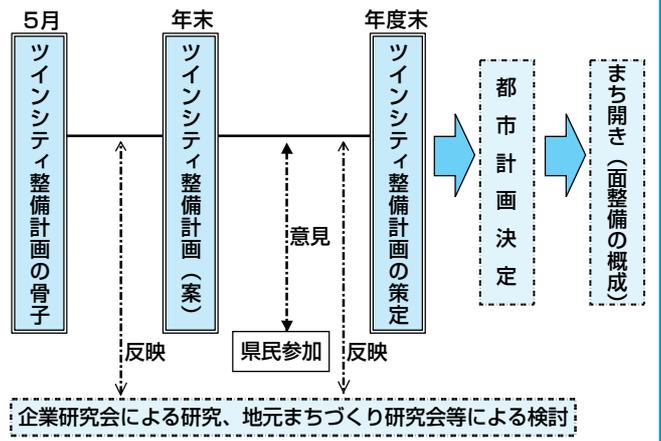
このほど、「ツインシティ整備計画骨子（案）」をとりまとめたので、この内容についてご紹介します。

特集 「ツインシティ整備計画」の策定に向けて

ツインシティ整備計画は、新しいスタイルの計画として次の3つの内容を骨子に検討を進め、平成13年度末を目途に策定します。

- ① 整備のあらすじを示した「都市づくりのシナリオ」
- ② 県民、企業、行政の三者の協働による都市づくりを実践するための「都市づくりの仕組み、きまり」
- ③ 環境共生モデル都市とするための「骨格となる計画（スケルトンプラン）」

策定スケジュール



1 ツインシティの政策的意義

(1) ツインシティの意義

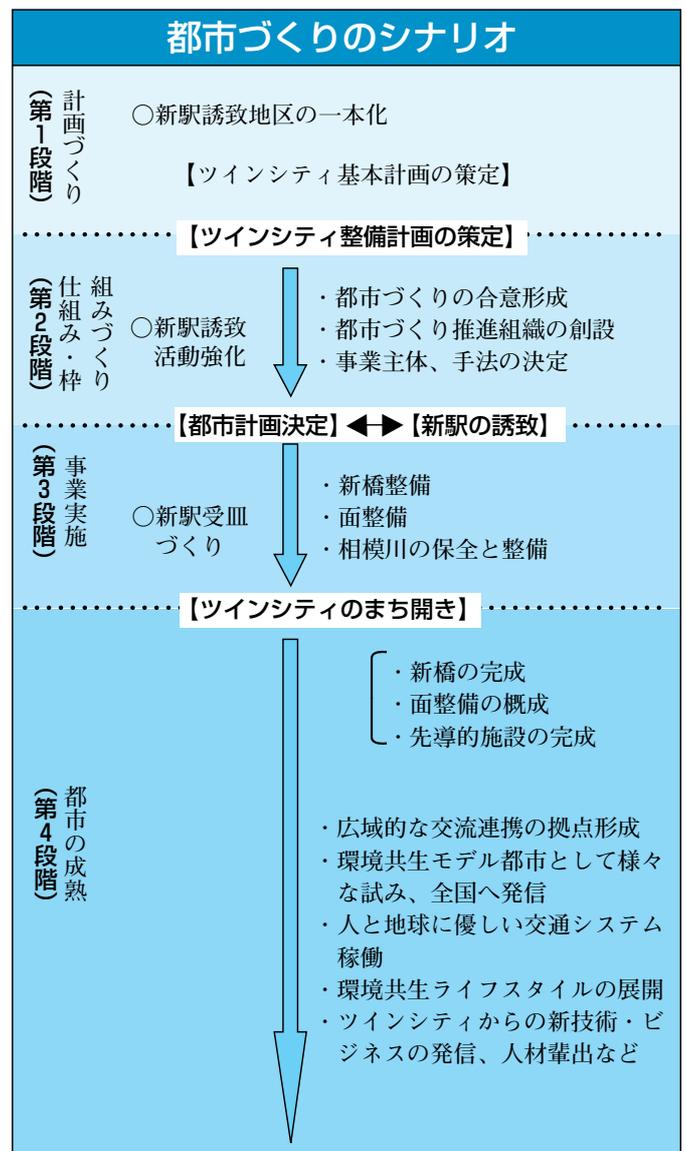
- ① 首都圏を分散型ネットワーク構造へと変えていくための核とする。
- ② 「県土全体のバランスある発展」を導く核とする。
- ③ 県央・湘南都市圏を環境と共生する都市圏へと誘導していくための核とする。

(2) ツインシティ形成に向けた取り組みの方向

- ① 東海道新幹線新駅の誘致
- ② 環境共生のシンボル空間としての相模川河川空間の活用と水循環都市の実現
- ③ 東西両地域をつなぐ環境にやさしい交通計画の導入
- ④ 情報通信、環境、医療福祉、生活文化等の新産業を創出・育成する拠点形成の実現
- ⑤ 農業や地域の産業との連携による新しい生活スタイル・ワークスタイルの創造
- ⑥ 行政と県民・企業との連携による新たな都市づくり（計画から運営まで）の実践

2 都市づくりのシナリオ

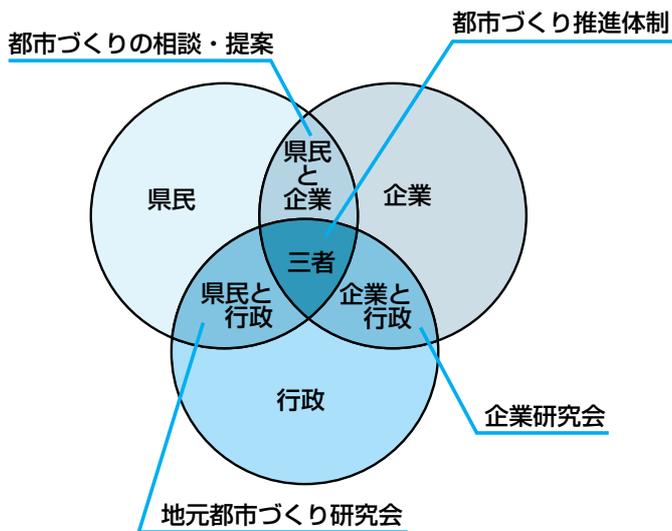
ツインシティの都市づくりを次の四つの段階で進め、環境共生モデル都市の形成と東海道新幹線新駅誘致の実現をめざします。（右図）



3 都市づくりの仕組み、きまり

シナリオに基づいて、県民・企業・行政の「協働による都市づくり」を実践するための基本的な連携の方法・役割分担の枠組みを示します。

(1) 連携の方法



(2) 主な役割分担

① 行政の役割

- ・都市づくり全体をリードする。
- ・都市づくりの道しるべ（シナリオ、骨格となる計画）を示す。

- ・新駅誘致活動をリードする。
- ・都市づくりを先導する施設の立地誘導を図る。
- ・交通基盤、河川等の整備の計画策定と事業推進を行う。

② 企業の役割

- ・環境共生、交流連携の実現に向けた研究・提案と事業参画を行う。
- ・新駅誘致活動を進める。

③ 県民（住民）の役割

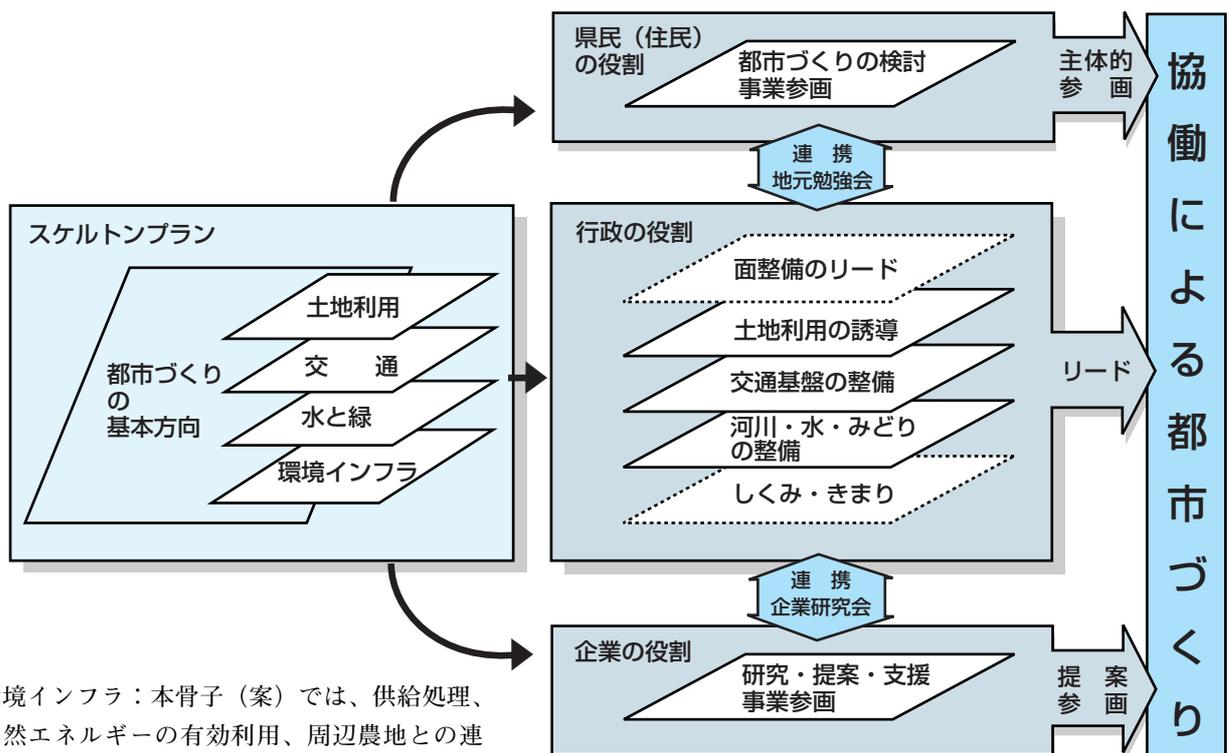
- ・地元の主体的な都市づくりを進める。
- ・新駅誘致活動を進める。

4 骨格となる計画（スケルトンプラン）

ツインシティを環境共生モデル都市とするための「骨格となる計画」（スケルトンプラン）を定め、これを基に県民・企業・行政の協働による肉付けを重ねながら、都市づくりを進めます。

- スケルトンプランは、現時点で確認できる必要不可欠な事項を示し、時代状況に応じて肉づけを行います。
- その過程は、都市づくりのシナリオの各段階ごとに、「段階ごとの計画」（ステージプラン）として示し、その道筋を明らかにします。
- スケルトンプランは、「都市づくりの基本方向」と、土地利用、交通、水と緑、環境インフラの「部門別スケルトンプラン」で表現します。

県民、企業、行政の協働による都市づくりの展開



※環境インフラ：本骨子（案）では、供給処理、自然エネルギーの有効利用、周辺農地との連携など、環境負荷低減の取組みを示す。

いま、県央・湘南都市圏では～市町

このコーナーでは、県央・湘南都市圏の市町村の環境共生事業をご紹介します。

相模原市 での取り組み

自然環境観察員制度の創設

1 はじめに

相模原市では、平成13年度から新しい環境基本計画をスタートさせました。

この計画の推進に当たり、新たな施策として創設したのが「自然環境観察員制度」です。

2 制度の概要

この制度の目的は、身近な自然に目を向け、市民と行政が一体となって本市の自然を調査することにより、環境に関する市民意識の高揚を図るとともに、自然の現状や変化を捉え、身近な自然環境を保全していくことです。

また、この制度は、環境基本計画に定めた重点施策の一つである「身近な自然を守り育てる」という目標を達成するうえでも、重要な役割を担っています。

具体的には、市内在住・在勤または在学の方を対象として、「自然環境観察員」を公募し、年4回（4季）程度、別々のテーマを設定し、簡易なアンケート形式で調査を実施します。

調査テーマは、環境基本計画の策定作業の一環で行われた「自然環境基礎調査」の結果をもとに抽出した「指標動植物種」から選定します。

また、ワークショップや勉強会などを定期的で開催し、自然環境に関する知識の向上を図るとともに、全調査終了後には、調査結果の報告と意見交換会を行います。

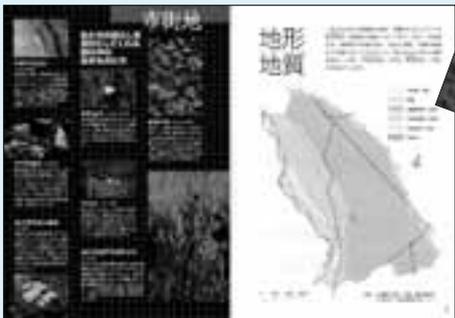
なお、自然環境観察員による調査の結果は、自然環境基礎調査の情報更新時の資料としても活用する予定です。

3 自然観察ガイドブックの発行

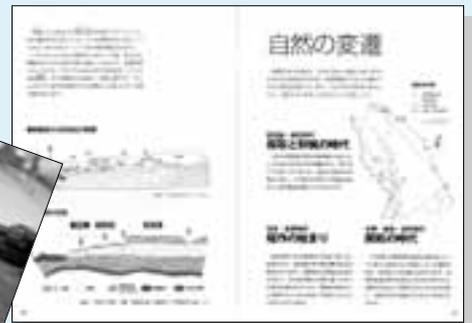
自然環境観察員制度の創設にあわせて、「相模原市自然観察ガイドブック～身近な自然を見てみよう」を発行しました。

これは、自然環境基礎調査の結果をもとに、本市の自然の変遷と現状をまとめたもので、市を3つの地域に分け、地域別に図や写真を用いて、生息する動植物の解説や自然観察のためのコースなどを紹介しています。また、本書は自然環境観察員のガイドブックとして活用するだけでなく、教育活動や一般の方にも広く利用していただきたいと考えています。

（ お問い合わせは、相模原市環境対策課
電話 042-769-8240 ）



相模原市自然環境ガイドブック
身近な自然を見てみよう



村での取組みから～

大和 市 での取組み

水循環の促進をめざして — 指針策定と雨水タンク購入費の助成 —



雨水タンクの例

1 はじめに

道路や駐車場などをコンクリートやアスファルトで覆うことは、雨水の地下への浸透を妨げ、地下水の枯渇や都市型洪水などの一因になっています。

大和市でも、樹林地や農地等の宅地化の進行に伴い、雨水の地下浸透量が減少し、湧水が減少したり地下水が枯渇する傾向にあります。平常時の河川流量の減少も考えられる一方で、水道・下水道の使用量は増大し、水循環のバランスが失われてきています。

2 雨水の浸透、貯留、利用の推進に関する指針の策定

大和市では、このような現状を踏まえ、総合計画をはじめ、環境基本計画や都市計画マスタープラン等の計画において、「雨水の地下浸透の増進」や「雨水の有効利用」、「水の循環系づくり」等、水循環に関する施策を掲げています。

そこで、平成11年7月には関係担当職員で構成する「大和市雨水の浸透、貯留、利用検討委員会」を発足し、先進事例等の調査、研究と基本的な方針や具体的な施策について検討を重ね、昨年12月に検討委員会としての活動結果を報告書にまとめました。

そして、本年2月には、この報告に基づき「大和市雨水の浸透、貯留、利用の推進に関する指針」を制定しました。

この指針は、市民をはじめ事業者や市が雨水の浸透、貯留、利用に努めることにより、地域水循環の再生、身近な水資源の確保等を図ることを目的としています。

そして、その実現のために必要な雨水浸透機能を確保することや、市、自らが雨水貯留及び雨水利用のための設備導入に努めること、市民及び事業者による設備導入について支援を行なうことなどを示しています。

3 雨水貯留槽（雨水タンク）購入費補助制度の創設

本年4月1日に施行した「雨水貯留槽購入費補助制度（大和市雨水貯留槽購入費補助金交付要綱）」は、この指針に基づく支援策の一つとして創設したものです。

この制度は、市内に雨水タンクを設置する者に対して、30,000円を限度額として本体価格の2分の1の補助金を交付する、というものです。対象となる雨水タンクとは、雨樋からパイプ等でつないで雨水をためる容器のことをいい、ためた雨水は庭の水撒きや洗車等に利用できるほか、非常時の生活用水など貴重な水資源として活用が可能です。

制度の導入直後から、来庁される方や電話での問い合わせ等の市民からの反応も数多く、こうした問題に関する市民の関心の高さがうかがわれます。

4 水循環をめざして

新たな補助制度により、既に多数の市民の方が、助成を受けて雨水タンクの設置をしています。今後も、広くこの制度をお知らせするとともに、水循環についてのPRを行ない、市民に水循環への関心を深めていただきたいと思います。あわせて、市、自らも小中学校等の公共施設に雨水タンクを設置するなど指針に基づく施策をさらに展開し、水循環の更なる促進をめざしたいと考えています。



お問い合わせは、大和市都市部都市総務課
電話 046-260-5444

伊勢原市 での取り組み

ホトケドジョウを守れ ～生態系に配慮した水路づくり～

市民から一通の手紙が届きました。「田んぼの中を流れる水路でホトケドジョウを見つけました。ぜひ保護してください」。

伊勢原市では、この手紙を受けて農業用水路「日向上堤水路」の計画を変更し、生態系に配慮した水路として整備しました。工事前に保護したホトケドジョウは、県水産総合研究所内水面試験場で育成され、今年4月下旬に行われた通水式で地元小学生の手で里帰りをしました。

日向上堤水路の全長は約935m。そのうち下流域の約775m部分は、平成9年度までに三面をコンクリートで固めた水路として整備されました。残る上流域の約160mについても平成10年度から同様の工事を行う予定でしたが、絶滅危惧種のホトケドジョウを守るために急きょ計画を変更しました。変更にあたっては、県湘南地区農政事務所や県水産総合研究所内水面試験場などと水路構造について協議し、生き物にやさしい「生態系保全型水路」として整備することにしました。



生態系に配慮して整備した「日向上堤水路」

右岸側には、コケ類が生えやすいように凹凸のある溶岩ブロックと魚たちが憩える魚巣ブロックを設置しました。

左岸側には、生き物が行き来しやすいように勾配を緩くして玉石を積み重ねました。また、水路の中に木杭の魚だまりを作ったり、水路の底に砕石を敷き詰めて粘土と泥の二重構造にしたりして、自然の川と同じような構造にするように努めました。



田園風景に合わせて復元した「上掛け水車」



ホトケドジョウを放流する小学生

ホトケドジョウは湧水のある水辺環境の良い場所にしか生息しません。この水路は冬季に水が干上がってしまうため、最上流部に深さ32mの井戸を掘り、ポンプで水をくみ上げて流す工夫をしました。ポンプ室には大山を望むのどかな田園風景に合わせて、日本の農家でよく使われていた「上掛け水車」を復元しました。

4月下旬、水草が生え、せせらぎの戻った「日向上堤水路」に約200匹のホトケドジョウが地元の小学生の手で放流されました。伊勢原市では、良好な自然環境を後世に残し、子どもたちの環境教育にも役立てていきたいと考えています。



《ホトケドジョウ》

日本固有種で本州と四国東部に分布。成魚の体長は6センチほどで、円筒形の細長い形をしています。

体色は肌色地で全体に黒点が散在し、ひげは4対8本（普通のドジョウは10本）あり、1対は鼻孔より上に角のように出ています。以前は県内各地で見られたホトケドジョウも、都市化に伴う環境悪化などの影響により数が減少し、環境省や県の絶滅危惧種に指定されています。

お問い合わせは、伊勢原市農林整備課
電話 0463-94-4711

ツインシティの都市づくり研究パートナー 行政と企業・団体との研究会 ～ 研究会がいよいよスタート ～

神奈川県では、環境共生モデル都市をめざすツインシティの実現に向けて、昨年、企業・団体の皆さんを対象に「ツインシティの都市づくり研究パートナー募集」を行いました。その結果、78件の提案・ご応募をいただき、この中から、右に掲げた8つの研究テーマを選び、今年度から2ヶ年の予定で8つの研究会をスタートします。

この研究会では、企業・団体の皆さんからのご提案をもとにして、分散型のエネルギーシステムや環境にやさしい新しい交通システム、農家参画による都市づくりなどについて行政と企業・団体が協働して研究を進めていきます。

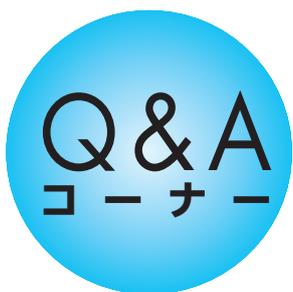
研究の内容については、13年度中に策定予定の「ツインシティ整備計画」に盛り込むなど、ツインシティの都市づくりに反映していきたいと考えています。

この度、研究の概要を冊子にしてまとめました。ご希望の方は、県央・湘南都市圏内の市町村、各地区行政センターにお問い合わせ下さい。

(http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendo_somu/twin-city/)

《研究のテーマ》

- 1 環境ライセンス制度と水利用・新エネルギー活用技術の研究**
〔代表企業〕三菱地所（株）
- 2 環境調和型エネルギー都市の研究**
〔代表企業〕（株）計画技術研究所
- 3 「みどり」の複合的効果とグリーンインフラの研究**
〔代表企業〕（財）神奈川県公園協会
- 4 環境共生型新交通システムの構築の研究**
〔代表企業〕石川島播磨重工業（株）
- 5 テレワークを活かしたライフスタイルとモデル施設の研究**
〔代表企業〕（社）日本テレワーク協会
- 6 福祉・健康都市づくりの研究**
〔代表企業〕東京海上火災保険（株）
- 7 農家地権者参画型の新しい都市づくりの研究**
〔代表企業〕神奈川県経済農業協同組合連合会
- 8 公・民パートナーシップによる区画整理の研究**
〔代表企業〕（株）フジタ



このコーナーでは、皆さんからのご質問をお受けしています。
「県央・湘南都市圏整備構想」ホットライン（裏面参照）までどうぞ。

Q：自動車のアイドリング・ストップはなぜ必要なのですか。また、どのようなときにアイドリング・ストップをすればよいのですか。

A：アイドリング・ストップとは、自動車が走っていないときに、エンジンをかけっぱなしすること（アイドリング）はできるだけやめようということです。

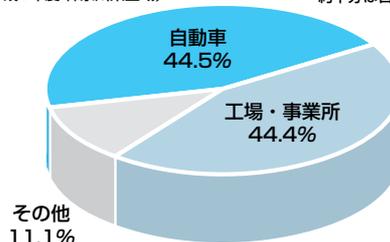
アイドリング・ストップが必要な理由は主に次のようなことからなのです。

- 自動車の排気ガスには、窒素酸化物（NOx）や粒子状物質（PM）など健康に悪い影響を与える物質が含まれています。光化学スモッグや酸性雨など大気汚染の原因になります。
- 排出される二酸化炭素は、地球温暖化につながります。
- アイドリング時の悪臭や騒音などは、近隣の方の迷惑になります。

※ 「神奈川県生活環境の保全等に関する条例」では、自動車の駐車をする場合にはアイドリング・ストップをしなければならないと定めています。

NOx【窒素酸化物】
排出量の発生源別内訳
(平成9年度 神奈川県全域)

NOx【窒素酸化物】の
約半分は自動車の原因です。



アイドリング・ストップをするときは、次のようなときです。

- 始動時における長時間の暖気運転
- 荷物の積み下ろしのとき
- 買い物などで、車から離れるとき
- 人（客）待ちのとき
- 休息のとき
- その他、場所や気候など周りの状況をみながら

お知らせ

平成13年度総会が開催されました。



5月7日（月）、ワークピア横浜で、神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会平成13年度総会が開催されました。

総会当日は、会員である11市町の首長、経済団体の代表者を始め、県内選出の国会議員、県議会・市町議会議長等多くの皆さんにご参加いただきました。

総会では、同盟会の附属組織である「まちづくり検討協議会」やツインシティのお膝元である寒川町及び平塚市によって、ツインシティ整備計画策定に向けた研究・検討、まちづくりに向けての取組状況などが報告されました。

同盟会が設立されて5年という節目にあたることから、これまでの実績を踏まえ、新駅を実現するために強化する取組み等について活発な議論が交わされました。

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会について

「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会」は、県中央部への東海道新幹線新駅の誘致を目的に、県及び関係11市町、県内経済団体等の関係団体を構成員として、平成8年5月に発足しました。

同盟会では、平成9年11月、新駅誘致地区を寒川町倉見地区に決定し、新駅誘致活動を行っています。

平成13年度は、7月、11月（昨年例）の計2回、新幹線新駅の寒川町倉見地区への設置について、国会議員、国土交通省、JR東海等に対し要望活動を行う予定です。

また、同盟会を構成する市町周辺の市町村などを加えて、「まちづくり検討協議会」を設置し、県央・湘南都市圏における環境と共生する都市づくりの検討・協議を進めており、「環境と共生する都市づくり」を県民のみなさんとともに推進するために、都市づくりNEWSの発行、フォーラム等の開催等を行う予定です。

■「まちづくり検討協議会」の県・市町村担当窓口

神奈川県	県土整備部県土整備総務室	045-210-6036(直)
平塚市	企画部企画課	0463-23-1111(代)
藤沢市	企画部企画課	0466-25-1111(代)
茅ヶ崎市	都市部都市政策課	0467-82-1111(代)
相模原市	都市部都市交通計画課	042-754-1111(代)
厚木市	市政企画部広域政策課	046-223-1511(代)
大和市	都市部都市総務課	046-263-1111(代)
伊勢原市	市長公室企画調整室	0463-94-4711(代)
海老名市	まちづくり部都市計画課	046-231-2111(代)
座間市	企画部企画政策課	046-255-1111(代)
綾瀬市	企画部企画課	0467-77-1111(代)
寒川町	都市部新幹線新駅対策課	0467-74-1111(代)
秦野市	企画部企画課	0463-82-5111(代)
大磯町	企画財政室	0463-61-4100(代)
二宮町	総務部企画室	0463-71-3311(代)
愛川町	総務部企画課	046-285-2111(代)
清川村	建設経済部地域整備課	046-288-1211(代)

※上記市町村が、県央・湘南都市圏内の市町村となります。

東海道新幹線新駅の誘致活動については、期成同盟会のホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/shin-eki/>

発行元

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会
(事務局：神奈川県県土整備部県土整備総務室)
〒231-8588 横浜市中区日本大通1
電話 045-210-6036
〔「県央・湘南都市圏整備構想」ホットライン〕
ファックス 045-210-8879
Eメール kankyou-kyousei.50@pref.kanagawa.jp
発行回数 年3回 この冊子は再生紙(古紙配合率70%)を使用しています。

編集後記

梅雨のうっとうしい毎日が続くといささか憂うつになりますが、道端に咲くアジサイを見るとなにか心が癒されます。

ところで、アジサイは、土壌が酸性だと青味が増し、アルカリ性だと赤色が強く出るのでそうです。

自動車の排出ガスなどで空気が汚れると酸性雨が降りやすくなりますが、アジサイは空気の汚れ具合を図るリトマス試験紙のようですね。